



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ジェイエスエス
コード番号 6074 URL <https://www.jss-group.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤木 孝夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 濱治 雅弘

TEL 06-6449-6121

半期報告書提出予定日 2024年11月14日

配当支払開始予定日

2024年12月9日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	4,208		209		208		149	
2024年3月期中間期								

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 148百万円 (%) 2024年3月期中間期 百万円 (%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	39.53	
2024年3月期中間期		

(注) 当連結会計年度は連結決算短信の作成初年度であるため、2024年3月期中間期の数値及び対前年同中間期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	7,800	2,835	36.3
2024年3月期			

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 2,836百万円 2024年3月期 百万円

(注) 当連結会計年度は連結決算短信の作成初年度であるため、2024年3月期中間期については記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		7.25		7.25	14.50
2025年3月期(予想)		7.50		7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,430		420		420		270		69.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1 社 (社名) 株式会社ワカヤマアスレティックス、除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	4,026,056 株	2024年3月期	4,026,056 株
2025年3月期中間期	348,403 株	2024年3月期	158,403 株
2025年3月期中間期	3,792,161 株	2024年3月期中間期	3,867,653 株

期末自己株式数

期中平均株式数(中間期)

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2)当社は、2024年11月22日にアナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、当社は、2024年5月31日を取得日として株式会社ワカヤマアスレティックスを連結子会社化し、当中間連結会計期間より連結財務諸表作成会社に移行いたしました。従いまして、前年同中間期の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表を作成しておりませんので、これらとの比較分析は行っておりません。

当中間連結累計期間における我が国の経済は、経済活動の正常化やインバウンド需要の回復等により緩やかな景気の回復が見られる一方で、ウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の悪化、中国経済の減速、円安などに起因する物価上昇など、依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような中、当社グループは「水を通じて健康づくりに貢献する」という経営理念のもと、より多くの人に心と体の元気を届けるべく、ベビーからシニアまで幅広い層の健康促進に取り組んでまいりました。

子供会員集客の施策では、新規会員獲得を目的とした、夏の短期教室および夏の入会キャンペーンの他、過去に会員であった人を対象とした「カムバックキャンペーン」や1日体験会を含めた間口を広げた集客の施策を実施する事により、当社の子供向け教育ノウハウの強みを活かした会員の獲得に努めてまいりました。

大人会員集客の施策では、国内特許を取得した自社開発の水中バイク「Jパドルバイク」に水中トランポリン、水中ウォーキングプログラムを合わせたオリジナルの水中運動プログラム「バイポリン&ワーク」について、当社事業所にて展開するほか、他社施設への販売拡大にも努めてまいりました。

水泳授業受託では、全国的な学校プール施設の老朽化や指導者不足により水泳授業の民間委託が増加するなか、当社の培ってきた専門的な水泳指導のノウハウを活かした小中学校における水泳授業の受託を実施しました。今後自治体からの入札要請やインストラクター派遣依頼に積極的に対応してまいります。

選手強化面では、2024年7月に開催された2024パリオリンピック競技大会では、玉井陸斗選手（JSS宝塚）が10m高飛込みで日本飛込史上初となる銀メダルを獲得しました。同大会においては荒井祭里選手が（JSS宝塚）が高飛込みに出場し、決勝に進出しました。

日本テレビホールディングス株式会社との業務提携の状況につきましては、同社100%子会社である株式会社ティップネス（以下「ティップネス」）との協業について、両社のノウハウ・経営資源を持ち寄ることで、両社の企業価値向上に資する効果的なシナジーをさらに強力に推進するため、以下の施策を進めてまいりました。

<ティップネスとの主な協業内容>

- 「地域から水難事故を0（ゼロ）に！着衣泳体験会」の開催
2005年より安全水泳に取り組んでおります当社のノウハウを活かし当社とティップネス社2社共同開催の形で、不慮の事故から命を守る対処法を身につける「着衣水泳体験会」を2024年5月19日にJSSスイミングスクールおゆみ野（千葉市緑区）で開催、6月30日にはJSSスイミングスクール立石（東京都葛飾区）で開催しました。
- 「JSS&Tipnessジョイントマスターズ大会in東京アクアティクスセンター」の開催
2024年9月29日に3回目となる当社とティップネス社2社合同によるJSS&Tipnessジョイントマスターズ大会を東京五輪の競泳会場となった東京アクアティクスセンターで開催いたしました。
- オンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」の提供
ティップネスが持つオンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」を当社会員およびその家族向けに提供し、顧客満足度向上とコロナ禍における施設に頼らない収益確保策の一つとしました。
- JSSキッズファミリープラン
両社が近隣に商圏を持つ事業所において当社子供会員の家族が割引価格でティップネスの事業所を利用出来る「JSSキッズファミリープラン」を設定し、顧客満足度向上につながるものとなりました。
- 協業会議および分科会の定期開催
当社とティップネスとの情報交換の機会として、協業会議および各業務、テーマに沿ったより細分的な会議体としての分科会を実施しております。
- その他
商材や備品の共同購入によるコスト削減や人事採用の情報交換等、両社の強みとスケールメリットを活かした様々な分野におけるシナジー効果を生み出す取り組みを協議し、実施するとともに、更なる施策の準備を進めてまいりました。

このような営業施策の結果、当中間連結会計期間末における当社グループの会員数は89,303人となりました。以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は4,208百万円、営業利益209百万円、経常利益208百万円、親会社株主に帰属する中間純利益149百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の資産合計は7,800百万円、負債合計は4,964百万円であり、純資産合計は2,835百万円となりました。

なお、当社は2024年6月30日をみなし取得日として株式会社ワカヤマアスレティックスを連結子会社化し、連結財務諸表作成会社に移行したため前事業年度との比較は行っておりません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、8月9日公表の「2025年3月期第1四半期決算短信」に記載の通り、2024年5月31日を取得日として株式会社ワカヤマアスレティックスを連結子会社化し、連結財務諸表作成会社に移行いたしました。その時点において、連結子会社の財務諸表を精査中であり、業績予想値を合理的に算定する事が困難であったことから、連結業績予想を未定としておりましたが、予想値の算定が可能となりましたので、下記のとおり修正いたします。

なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2025年3月期の連結業績予想 (2024年4月1日～2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回修正予想 (B)	8,430	420	420	270	69.81
増減額 (B - A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2024年3月期)	—	—	—	—	—

※当連結会計年度は連結決算短信の作成初年度であるため、2024年3月期の数値及び対前年増減率については記載しておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,368,633
受取手形、売掛金及び契約資産	120,180
商品	127,768
その他	123,615
貸倒引当金	△1,932
流動資産合計	1,738,265
固定資産	
有形固定資産	
建物(純額)	2,988,797
土地	1,866,691
その他(純額)	151,017
有形固定資産合計	5,006,505
無形固定資産	
のれん	88,852
その他	12,899
無形固定資産合計	101,751
投資その他の資産	
敷金及び保証金	742,466
その他	229,059
貸倒引当金	△18,042
投資その他の資産合計	953,483
固定資産合計	6,061,740
資産合計	7,800,006
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	208,810
1年内返済予定の長期借入金	569,564
未払法人税等	75,527
未払消費税等	79,355
前受金	563,700
賞与引当金	68,391
その他	576,530
流動負債合計	2,141,879
固定負債	
長期借入金	2,102,743
退職給付に係る負債	59,721
資産除去債務	567,048
繰延税金負債	33,706
その他	59,343
固定負債合計	2,822,563
負債合計	4,964,443

(単位：千円)

当中間連結会計期間 (2024年9月30日)	
純資産の部	
株主資本	
資本金	330,729
資本剰余金	125,665
利益剰余金	2,582,403
自己株式	△201,821
株主資本合計	2,836,976
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△1,413
その他の包括利益累計額合計	△1,413
純資産合計	2,835,563
負債純資産合計	7,800,006

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	4,208,281
売上原価	3,490,168
売上総利益	718,112
販売費及び一般管理費	508,635
営業利益	209,477
営業外収益	
受取利息	251
受取保険金	2,942
その他	11,309
営業外収益合計	14,503
営業外費用	
支払利息	6,280
関係会社負担金	7,264
その他	2,345
営業外費用合計	15,891
経常利益	208,089
特別損失	
固定資産除却損	0
特別損失合計	0
税金等調整前中間純利益	208,089
法人税、住民税及び事業税	48,444
法人税等調整額	9,748
法人税等合計	58,193
中間純利益	149,896
親会社株主に帰属する中間純利益	149,896

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	149,896
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△1,413
その他の包括利益合計	△1,413
中間包括利益	148,482
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	148,482

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	208,089
減価償却費	111,659
のれん償却額	2,866
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△812
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25,467
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△13,550
受取利息及び受取配当金	△251
支払利息	6,208
売上債権の増減額 (△は増加)	△15,733
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△4,389
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,885
未払又は未収消費税等の増減額	1,371
前受金の増減額 (△は減少)	9,317
その他	△112,986
小計	191,207
利息及び配当金の受取額	251
利息の支払額	△6,135
法人税等の支払額	△82,725
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,597
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△21,630
無形固定資産の取得による支出	△1,155
貸付金の回収による収入	1,169
敷金及び保証金の回収による収入	241
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	136,682
その他	△10,062
投資活動によるキャッシュ・フロー	105,244
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債の償還による支出	△4,500
長期借入れによる収入	670,000
長期借入金の返済による支出	△242,133
自己株式の取得による支出	△101,650
配当金の支払額	△28,040
財務活動によるキャッシュ・フロー	293,676
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	501,518
現金及び現金同等物の期首残高	862,113
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,363,632

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループはスイミングスクール運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。